



第 1307 回例会報告

平成25年3月7日(木) 晴

【3月は識字率向上月間】

会長挨拶

会長 蒲地整志

民主主義

広辞苑によると、デモクラシー、語原はギリシャ語で人民と権力を統合したもの。すなわち人民が権力を所有し、権力を自ら行使する立場をいう。古代ギリシャの都市国家で行われていたものを初めとし、近世に至って市民革命を起こした欧米諸国に勃興。基本的人権、自由権、平等権、あるいは多数決原理、法治主義などがその主たる属性であり、またその実現が要請される。とあります。

以前、TV(放送大学)で日本のある大学の学者が1947年(だったと思う)にアメリカの政治学者(名前を忘れましたが)「近代の民主主義は圧力団体の主張の争いである(70年前に既にそういう事を言っていた)簡単に言うと、徒党を組んで政治家に圧力をかける、或いは、その団体の代表者を政治家にして議会に送り込むものだ」と断言していました。

そのTVで学者は「これからは、それは民主主義ではなくなるだろう」と言っていました。それは情報が圧倒的に多くなり、有権者の選択肢が大きく広がったからだと述べています。

もう圧力団体が政治を動かす時代ではないのです。

そして真の民主主義を達成する為には、情報を公開し、有権者の判断を待つという姿勢が大切になります。

そうする為にも、長期ビジョン、国の行くべき方向

性のポリシー等がより一層大切になります。

前にも言いましたが、ロータリークラブほど民主的な組織はないと思います。クラブ内で会員が議論をし、さらに民主的な運営を心掛けて行きたいと思います。

◇幹事報告◇

【報告事項】

特にございません。地区協議会の案内が届くなど次年度の足音がすぐそこに聞こえてまいりました。

【連絡事項】

- 1) 大社ロータリーの記念式典はございません。
- 2) 未来の夢計画について、書類を整えています。

【受領文書】

- 1) 諏訪 RC の会報が届いています。

■出席報告

会員数	35名
出席対象	33名
出席者数	24名
出席率	72.7%
前回修正	90.9%

■ニコニコBOX

23名	23,000円
累計	885,000円
目標額	130万円
達成率	68.0%

■今週のこぼ

久しぶりに良い映画を見ました。その名は「東京家族」
溝口幸二

雪ノ下で芽吹いたフキノトウを収穫しました。
暖かな日差しに春の足音が聞こえます
御子柴文夫

■次回のプログラム

3月21日
里山整備について
社会奉仕委員会



第 1307 回例会

ミンダナオ！松居友さん!!
そしてミンダナオ子供図書館!!!

クラブ会報・雑誌広報委員会 溝口幸二

今期の我がクラブ国際奉仕事業のためセブ訪問した後、長崎さんと私そして元下中校長の小池ヒロシさんの3名が、ミンダナオ島のキダパワン市にあるミンダナオ図書館活動を見学するためにダバオに飛びました。

ミンダナオ島は7000以上もあるフィリピン群島の中でルソン島に次ぐ大きな島で、フィリピン最高峰のアポ山を背にした街、ダバオはマニラに次ぐフィリピン第二の大都市です。熱帯に在りながら台風の通り道から外れているため、雨は多いけれど気候は温暖で、豊かな農産物や果物に恵まれ、日本に輸入されるバナナの8割はダバオ産です。

そんな地上の楽園のように思えるミンダナオ島に、政治や宗教、資源を巡る対立によって40年以上紛争が続いています。そんな紛争の犠牲となって笑顔を失ってしまった子供達に絵本の読み聞かせ運動をきっかけに、教育や医療の機会を提供し、また、戦争や洪水で避難民が出ると、直ちに救済活動を立ち上げるNGO法人「ミンダナオ子供図書館」(MCL)を今から10年前に設立したのが、日本人の松居友さんです。現地に於けるMCLの活動や、子供図書館での松居さんご家族と120人の子供達の共同生活については、例会卓話でお話したとおりです。

ここでは、今年還暦を迎える松居友さんが行っている「ミンダナオ子供図書館流、平和構築の方法」をMCL季刊誌から転載して、皆さんにMCLを理解して頂きたいと思います。

困窮して三食食べられない極貧の村の情報を現地まで得て、車で向かう。そのような村はたいがい反政府組織の影響下で、街道や市町村の中心からかなり離れた山奥だから4WDか徒歩か馬でしか近寄れない。

村の子どもたちの現状を知るために、まずは奨

学生たちが読み語りを計画し実行、村のほとんどの子供達が集まる。

読み語りが終わって病気の子がいなかったかを確認、時には即断し病院に運ぶ。

次に集まってきた子たちの中で、ことのほか貧しい子たちの家庭を訪問、生活や教育の状況を聞き取り調査。困窮しつつも意欲のある高校生と小学生を奨学生に採用、大学までのスカラシップを約束。

学校が遠くて通えない場合や、子たくさんで三食食べられない家庭の子、また親のいない子や家庭事情の厳しい子の場合、ミンダナオ子ども図書館に住み込みで、食べて学校に行かせてあげる。

学校教育だけでは平和構築は無理なので、月一回高校と大学の子全員がMCLに集まって文化祭や平和の祈りを自主的に開催。

こうして村とのしっかりした絆が結ばれて、人々の心が平和に向かって開かれていく。



付記:2012年、松居さんは国際平和に通じる活動に取り組む個人や団体を大阪府堺市が顕彰する[第3回自由都市・堺平和貢献賞]の奨励賞を授賞されました。また、1月4日のTV東京で放映された「世界ナゼ?そこに日本人」で紹介されています。興味のある人は、私がDVDを持っていますので、お貸しします。